

ラジオ大阪はどんなラジオ局？

1958(昭和33)年7月1日に開局し、おかげさまで67周年を迎えました。AMでは50kWという出力(電波を飛ばす強さ)で放送している準キー局では最大で、東は名古屋、西は大分県まで電波が届いています。国内には民放AMラジオ局が47局ありますが、100kWで放送しているのは東京のキー局3局、50kWで放送しているのは札幌、名古屋、大阪、福岡の基幹地区9局です。文化放送、ニッポン放送をキー局にするNRNネットワークに属しています。



こんなことをやってきました。

- ・笑福亭鶴瓶、新野新出演の伝説の深夜番組「ぬかるみの世界」や、最新の音楽チャートで人気を博した「OBCブンブンリクエスト」など、知名度の高い人気番組を放送してきました。
- ・1961(昭和36)年に、ラジオ局初のステーションソング「OBCソング」が誕生しました。作詞は『火垂るの墓』で有名な野坂昭如、作曲は「手のひらを太陽に」などのヒット作を多数手がけたいずみたくが手掛けました。「ラジオ聴くなら、ラジオ大阪〜♪」という曲は、今も放送やイベントで聴くことができます。

関西の文化を育て、社会に役立つ活動を実施しています。

- ・最も伝統ある漫才賞である「上方漫才大賞」は、60年の歴史を誇ります。現在は関西テレビ放送と共催しています。(9・10ページ)
- ・ニッポン放送をキーステーションに、目の不自由な方をサポートするためのチャリティキャンペーン「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」を1976(昭和51)年より実施しています。48年で302基の音の出る信号機を寄贈してきました。(11・12ページ)



ラジオ大阪の聴き方

AM1314kHz …AMが受信できるラジオでお聴きください。

FM91.9MHz …よりクリアな音声で放送をお届けします。(内容はAMと同じです)「ワイドFM対応」のラジオで、お聴きください。

radiko…パソコン・スマートフォンでも、radiko.jpでいつでもどこでもラジオ大阪の放送が聴けます。

OBCマーケットエリア



地図上のマーケットエリアはAM放送において、もっとも良質な電波が一日中確実に届く範囲。サービスエリアは、法定上の電界強度を満たすエリアです。

人口：22,163,449人
世帯数：10,894,053世帯

(注)2024年1月1日現在の「住民基本台帳」よりOBCマーケットエリアに含まれる部分を算出。



AMとFMの違いは？

簡単に言うと音声を電波にのせる方式と周波数帯が違います。AMは遠くまで伝わりますが雑音が入りやすい、FMは遠くまでは伝わりにくいですが音質が良いという特徴があります。状況によって聴きやすい方をお選びください。

ラジオリスナーについて

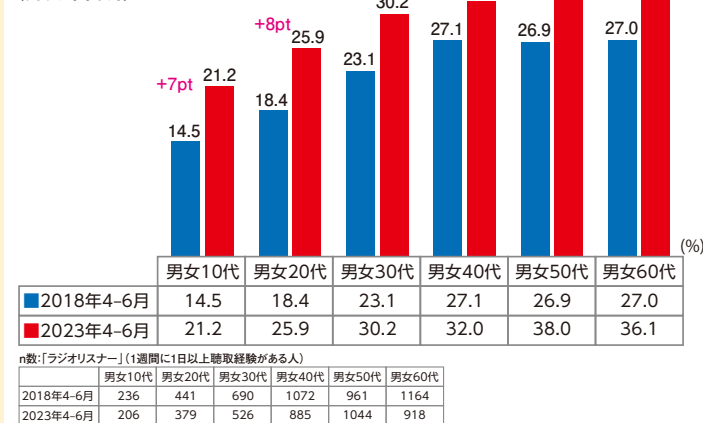
【ラジオに対する好感度】

ラジオリスナー(1週間に1日以上聴取経験がある人)におけるラジオに対する好感度を5年前と比較した資料によると、「好き」というラジオに対する印象が全体(男女12-69才)で8pt(ポイント)、性年代別でもすべての年代で大きく増加しています。特に増加が大きいのは50代以上(10pt前後)で、従来メディアに親しみ深い世代となっています。若い世代でも8pt前後の伸びがみられ、年配者とそんな色がないことから、年代問わず「ラジオ愛」がリスナー全体に広がっている様子がみてとれます。

【引用】ビデオリサーチ「ACR/ex」データより(2023年／関東・関西・名古屋・北部九州・札幌・仙台・広島7地区合計／1週間に1日以上ラジオの聴取経験があるラジオリスナー対象)
※「ACR/ex」は生活者意識、商品関与、メディア接触など20万項目以上を有する日本最大級の生活者データベース

図1

ラジオリスナーのラジオ好感度
(男女年代別)

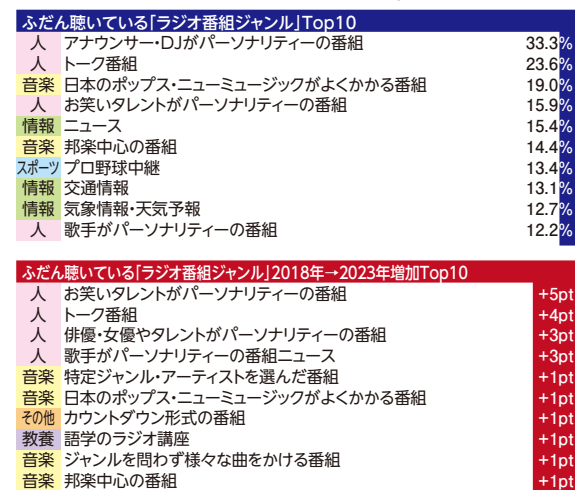


【ラジオ番組の人気ジャンルの傾向】

2023年データによると、リスナーに最も聴かれているジャンルは「アナウンサー・DJがパーソナリティの番組」(33%)、次に「トーク番組」(24%)、「日本のポップス・ニューミュージックがよくかかる番組」(19%)、「お笑いタレントがパーソナリティの番組」(16%)と続き、パーソナリティ重視のジャンルが上位にあがっています。5年前(2018年)との比較でも、「お笑いタレント」「俳優・女優」「歌手」といった有名人がパーソナリティを務めるジャンルが増加しています。これらの結果から、リスナーにとってラジオから聞こえてくる有名人の自由で自然な会話への特別感や、有名人との一体感が他メディアにはない魅力となっていることがわかります。

【引用】ビデオリサーチ「ACR/ex」データより(2023年／関東・関西・名古屋・北部九州・札幌・仙台・広島7地区合計／1週間に1日以上ラジオの聴取経験があるラジオリスナー対象)
※「ACR/ex」は生活者意識、商品関与、メディア接触など20万項目以上を有する日本最大級の生活者データベース

図2 2023年リスナーのふだん聴いている「ラジオ番組ジャンル」Top10
2018年より増加しているジャンルTop10



【ラジオの聴取デバイスの変化】

2023年のデータによると、「スマートフォン」(47%)と「カーラジオ・カーナビ」(41%)が2大デバイスとなっています。また、「スマートフォン」によるラジオ聴取は、20代以降のすべての年代で40%を超えています。radikoを利用した経験も5年前に比べ大きく上昇していることを見ると、スマートフォンの普及拡大で、ラジオの生活密着度が高まっていることがうかがえます。

【引用】ビデオリサーチ「ACR/ex」データより(2023年／関東・関西・名古屋・北部九州・札幌・仙台・広島7地区合計／1週間に1日以上ラジオの聴取経験があるラジオリスナー対象)
※「ACR/ex」は生活者意識、商品関与、メディア接触など20万項目以上を有する日本最大級の生活者データベース

図4

リスナーのラジオ聴取デバイス

